

## 神戸市会 会議録

2008.03.06 : 平成 20 年予算特別委員会第 1 分科会〔20 年度予算〕(教育委員会) 本文  
(一部抜粋)

56 : ○分科員 (北山順一)

○分科員 (北山順一) それでは、私から質問をやっぱり 4 点させていただこうと思っております。

まず、教育長そのものことについて伺いたいと思うんですが、もう教育長はその籍に就任されて 4 年目だそうでございますが、その就任されるとき、教育長は教育長として大変なビジョンを持って、神戸の教育をこれから背負って立つぞと、神戸の教育はこういう方向へ持っていくぞというビジョンを持って、その責につかれたと思うんです。その成果たるはいかがでございますでしょうか。1 回教えていただきたいと思っております。

それから、けさからいろいろ質問がありました。民間の校長先生を採用したらどうかかという話がありました。民間の校長先生を採用して成功している例もありますが、失敗しておる例もありますね。例えば、広島市で民間人の校長を採用した。ところが、しばらくしたら仕事に耐えられずに首つり自殺をしてしまった。その後始末で走り回っておった教育委員会の次長がまた首つって死んでしまったと。だから、こういうことの末路というものは哀れであったなというようなことが出ておりました。だから、成功した例もありますから、あかんとは言っておりませんが、本当に慎重に考えてやってもらいたい、こう思っております。

それよりも、私はむしろぜひお願い申し上げたいのは、これもけさからいろいろ発言がありましたけれども、暑いとき、寒いとき、冷暖房の問題が出ておりました。今ここにいらっしゃる皆さんだって私らだって、暑いから冷房入れてくれたとか、寒いから暖房入っておったとかって、六甲山小学校は知りませんよ、あそこのことは知りませんが、しかし私どもの通ってきた小・中・高校・大学も暖房、冷房は入っておった覚えはないんです。あの湯川秀樹さん、あるいは野依さんが在学中だって暖房も冷房もなかったと、こう思っております。だから、そういう意味で、余り至れり尽くせりでやるよりも、少しはそういう今までの教育のいいところを見習って残して行ってほしいなと、こういうふうに思っております。

それからもう 1 つは、私はそういう冷暖房の問題もそうですけれども、私自身が随分昔に質問をしておるんですけども、校庭に芝生を敷いたらどうですかと、校庭じゅう芝生を敷いたらいいよということを申し上げたことがあります。そのすぐ後に、私は平尾誠二さんかなと思ったら、大八木さんが、やっぱり学校には芝生を敷こうよと、芝生の上でいろんな運動競技をやって寝転んだり、いろんなことすれば素晴らしいよという意見がありました。そういうところに私は力を入れていただいた方がいいんじゃないかなと、こういうふうに思うんですが、コメントをいただきたいと思っております。

それから、この教育の活性化ということについて伺いを申し上げたいと思います。

18 年 12 月の教育基本法の改正というのがございました。ここで教育職員の免許法など、いわゆる教育三法の改正が行われて、我が国の教育について大きな変革期が来たんだと、こういうことでございますが、本市の教育の状況をかながみると、教育現場ではさまざまな問題が発生しておると、こういうふうに私ど

もは聞いておるんですけども、この教育職員免許法の改正によって、神戸市はどのようになっておるのか。

例えば、全国学力学習調査というものについても、大体この本年度の結果は、教育委員会としては、全体としては全国の中位ぐらいですよと、こういうふうな発表がされております。中位ぐらいだからそれでいいんじゃないというふうに思われずに、もっと上位を目指すぞと、神戸市の教育は日本じゅうに冠たる教育をするんだというような立場で取り組んでいただきたい。そのためには、教育委員会は活発な議論をして、活発な議論を公開して行ってほしい、そういうことを申し上げたいんですが、ご意見あったらお聞かせいただきたいと思います。

それから、図書館の指定管理者制度というのがあるんです。図書館が指定管理者制度をとることによって、いい面がたくさんあります。いい面がたくさんありますけれども、このいい面を特に中央図書館の機能強化を図るという分野で発揮をしていただきたい、そういうふうには私は思っております。

例えば、大阪の府立の中之島図書館というところが実施しておりますビジネス支援という分ですね、このビジネス支援図書館ということで大変注目をされておりますが、この大阪府立中之島図書館のやっておることを、本市においても産業振興局等と連携して市内の中小企業のサポートをしていく、そしてそのサポートを、こういうサポートをしましょうというて、一緒に連携をとりながらやっていただければ、そういう行動する図書館、そういうものになっていただきたいと思っております。

最後にもう1点、食の安全についてお伺いを申し上げたいと思います。

先日来、中国製の冷凍餃子の問題で、大変日本ではこの食の安全という面で注目をされております。資料を調べていきましたら、中国製の食品はここが危ないといって、危ない食品の一覧表が出ておる本があります。370種の食品、これ全部あかんよと、毒入りでございますと、こう書いてありました。私が言うのと違います、書いてありました。そこで、神戸の子供の教育において出る食材ですね、これこそ地産地消という言葉、この言葉がよく使われますけれども、神戸の給食は地産地消で賄えるものは全部賄うと、こういう姿勢でいてほしいと思うんですが、いかがでしょうか、お伺いします。

以上です。

## 57：○小川教育長

○小川教育長 私から何点かお答えしますけども、まず、私の就任当時のビジョン、思っておったのかどうか、また、その成果のようなお話がございました。私が教育長にというお話を聞いたのはほんの直前でございまして、大きなビジョンを考えるほどの時間はなかったかなというふうに思っておりますけども、その中で、私、灘の区長をしておりましたから、いろんな意味で子供たちというのは地域の中でやっぱり育っていくといいますが、地域の中で足というか、そういうようなものをしっかり置いて育っていく、活動していくということが大事だろうと。やはり子供たちは将来的に大きくなってもお年寄りになっても、やっぱり地域の中で大方の子供たちが育ち活躍していただくわけですから、そういうような意味でそういうような思いがありましたのと、もう1点は、やはり神戸というのは国際的に開かれたまちですから、グローバル社会の中で飛躍できるといいますが、そういうような子供たちに育てほしいなというような感じは持ってございましたし、いろんな意味でネットワーク社会といいますが、そういうようなものが広が

ってきた時期かなというように思っておりますが、いろいろな力といいますか、そういうようなものを教育の中に取り込んでいくといいますか活用していくというようなことが大事なんではないかなというように思いながら教育に参りました。

教育の中では、既に平成15年度にアクティブプラン、神戸の特色ある教育を進めていくんだというアクティブプランができてございました。かなり全体的な体系的なさまざまな取り組み、そういうようなものから、学校がいろいろなことをチョイスしながらそれぞれの学校に合った取り組みをしていくということでございまして、そういうようなものができたばかりでございますから、これをきちっとやり遂げることが大事であるというふうに思っております、その中でも特にわかる授業といいますか、子供たちが興味関心を持って、本当に自分たちの力、学力を含めて、そういうようなものをつけられるような取り組み、その大きな柱になってございましたから、そのためにかなり大きな予算、これを市長にお願いしまして、1度に1億4,000万円ほどのソフト予算をつけていただきましたけれども、そういうようなものもいただきながら進めてまいりましたし、また、いろいろな意味で耐震補強の問題がございますけれども、これも17年度から10年間の長期計画というような形で立ち上げさせていただいたりとか、そういうようなことをやっております。

アクティブプランにつきましては、これはご存じのようにPDCAサイクルという中で、毎年毎年その成果を検証しながらやっていくわけでございますから、これは検証する中でいろんなたくさん学校の先生方、学識経験者、また、地域の方々、もろもろの方々の意見とか考え方、そういうようなものも取り入れながらやっておりますわけでございますから、そういうような成果の検証をその中でやっておりますわけございまして、そういうようなものが毎年やはり高まっておると思いますし、アクティブプランの中で目標にしておりますものにつきましても、かなりの部分ができてきたというような気持ちは持っております。

ただ、これはいずれにしろ、PDCAサイクルの中で次のステップを目指して、どんどん新しいものを取り入れ、よい活動をその中に入れていかなくちやいけないうわけでございますから、これを続けていくということが大事だと思いますし、そういうような意味では、随分たくさん宿題が、たくさんたくさん残っているというように思っております。

それから、芝生の関係がございましたけれども、芝生はこれ平成13年に桜の宮小学校に、小学校としては——幼稚園は幾つかあったんですが、そういうようなものが消えていきまして、桜の宮小学校に初めて、これは運動場の真ん中部分、活動する部分は土のまま周辺を芝生にするということを、これは21世紀復興記念事業で芝生化のような話が出てきまして、試みとしてそういうようなことをやったというのが1件ございます。これが全体にはなかなか定着してないということでございますけれども、18年度には、これ港島小学校につきまして、これは全面芝生でございます、を実施してございます。いずれにしろ、芝生につきましても、やはり管理が——いいんですけども、管理が非常に難しいということです。毎日のような手入れが必要ですし、それとか芝生の種をちょっと植えかえたりとか、そんなことなんかも必要ですから、いろいろな力がそこで必要でございますので、そういうようなものができれば、場合によってはそういうようなものを少しふやしていくとか、そういうようなこともあろうかというように思っております。

それから、教育の活性化の関係でございますけれども、教育委員会に、それこそ教育委員6人おりますけれども、いろんな経験の者が集まっておりますわけございまして、教育経験者がおり、学識経験者がおり、ま

た、スポーツの関係、法曹界、また、保護者というような立場から入っていただいているというような、いろんな経験をお持ちの方で構成されておられるわけでございまして、そういうような視点から得意な分野もございまして、一般的な見方とかそういうようなものも入れまして、いろいろ議論をいただきながら、また、学校現場の動きでございますとか保護者の意向、そういうようなものが非常に大事ですから、そういうようなものをできるだけ学校現場にも足を運びながらお聞きしたりとか、いろんな活動を直接見たりとか、それにまた参加したりとか、また、校長方とか、いろんな相談したりとか、教育懇談会を開いたりとか、そういうような形でいろいろやってきてございます。

先ほど、全国学力量習状況調査の話もございましたけれども、これは十分であるというふうに私ども考えでももちろんございませぬけれども、例えばこういうような調査につきましても、私ども国の調査が始まる数年前から、基礎学力の定着度調査というのをしっかりやって、その実態調査の中から、いろんな意味で子供たちの学力でありますとか、そういうようなものを高めていくための改善策といいますか、そういうようなものを思考しながらやってきたわけでございますし、新しい学習指導要領が平成23年から始まりましても、この中で盛り込まれております中身につきましても、かなり先行的に私ども取り組んできてございます。わかる授業なんか1番わかりやすい例かなと思っておりますけれども、こういうようなものも教育委員会なり何なりの中で議論もしながら、また、そのチェックといいますか、進行管理チェック、そういうようなものをしながらやってきておるつもりでございまして、そんなことを今後とも進めていきたいと思っております。

以上でございます。

#### 58：○池内教育委員会事務局指導部長

○池内教育委員会事務局指導部長 失礼します。食の安全について……。

先ほどご指摘ございました、中国産の加工品等につきましては、今回の例の中国産の冷凍餃子等々につきましては使用はしてございません。すべて、今、国内の製造工場の製品でございます。

それで、どうしても中国産の食材は避ける方針でございますけれども、代替品がない場合とか、量的に確保できないものという場合は、やむを得ず使用せないかん場合もあろうかと思うんですが、そういう場合は、もう残留農薬等々の検査をしっかりやって、十分安全性を確保した上で使いたいなど、こういうふうに思っております。

それからもう1点ございました地産地消の推進でございますけれども、もうご指摘のとおりでございます。私どもは学校給食で使う食材は国内産を原則としてございまして、まず第1番に神戸産を優先します。その次に兵庫県産を優先しております。そういったことで、従来から地産地消を推進はさせていただいております。

現在、地元産の食材につきましては、米がすべて神戸産でございます。それから学校給食で使います23種類ほどの生鮮野菜があるわけでございますが、昨年度は9種類の神戸産にふやしました。それ以外に神戸の地場産物である灘の酒かすとか須磨のノリなどの加工品も利用させていただいております。

それからもう1点は、1つは供給体制の問題がございまして、量的に確保できなあかん部分もあるんですが、市内で7ブロックに分割して食材を発注しております、1ブロックだけでもこの地場産物が供給

できれば使用するようにはさせていただいてるところでございます。そういう形をとりましたおかげで、データで17年と18年を比べますと、約30%ほど使用量がふえてまいっております。それから種類も先ほど申し上げた7種類から9種類とふえてきてございます。

地元産の食材の使用に関しましては産振局とも連携しております、JAや卸売業者等による学校給食における、こうべ旬菜利用促進会議というのがございまして、その中で、要するに学校給食での使用とか産地での供給間での受給調整を綿密に行いながら、使える生鮮野菜の種類をふやしていきたいと、こう思っております。地産地消は従来に増しても推進していきたいと思っております。

#### 69：○大賀市民参画推進局市民生活部長

○喜多教育委員会事務局中央図書館長 それでは、図書館のビジネス支援ということについてお答え申し上げます。

現在、私どもの中央図書館の方のビジネス支援の現状でございますけれども、1つは、まず資料の用意をしてそれを提供していくということで、特に企業関係等で、企業関係の情報でありますとか、それから法律関係の情報、官報、そういうものを用意して提供しております。

それからもう1つは、そういう企業の方からのご相談、調査依頼、そういうのがございましたときに、それに対応するような形での資料をそれに対して提供していく、レファレンスというふうに言っておりますけれども、こういうものを、例えば判例の調査でありますとか、そういうことをやっております。

さらに、私どものホームページ、中央図書館のホームページの方で、調べ物ガイド・お役立ちリンク集、こういうのを張っております、ここで例えば企業の有価証券報告書、これは金融庁のEDINETというホームページでございますけれども、そういうものにすべてつながるような形で、そういうリンクを昨年約100ぐらいから倍増しまして今256までリンクを張るという形で今やっております。そういう形でお役に立てていただければというふうに思っております。

先生の方からご指摘ありました、大阪府立の中之島図書館、これは全国的にもビジネス支援で非常に有名なところでございまして、ビジネス支援の専門組織、専門の組織を持ってございます。そこにはかなり大量の情報・資料を収集いたしまして提供して、また、セミナー等も行うと、こういう非常に活発な活動をやっております、これは大阪府立の図書館群の中での1つの役割分担、大阪府立図書館は、東大阪に非常に巨大な中央図書館を持っておりますので、非常に老朽化してきた手狭な中之島がどういう形で役に立ってくるかと、こういうことの中で検討された結果、ビジネス街の中心にあるという立地を生かしてビジネス支援をやろうと、こういう形になって、今、展開をしております。

私どもの方は、今、先生の方からご指摘がありましたように、指定管理に移行した後で、その部分について中央図書館の機能を強化していきたいと、これはもう全くそのように考えております。この中の1つの項目として、ビジネス支援というのを我々も認識をしております、どういうやり方がいいのかなど。大阪とやはり立地の条件が違いますので、神戸に適した形でのビジネス支援が何かできないだろうか、ということで今検討いたしております。そういう点では資料を集めたビジネス支援のためのコーナーの設置等も含めまして検討していきたいと、こういうふうに考えております、特に……

60：○主査（芦田賀津美）

○主査（芦田賀津美） 当局に申し上げます。

答弁は簡明にお願いします。

61：○喜多教育委員会事務局中央図書館長

○喜多教育委員会事務局中央図書館長 申しわけございません。

産業振興局との関係で、既に産振財団の方と数回このことについて協議をいたしまして、実際のニーズがどこにあるかということで、それに適したような形で相互に協議をしながら、いいサービスが提供できるようにしていきたい、こういうふうを考えております。

以上でございます。

62：○分科員（北山順一）

○分科員（北山順一） もう時間がないと思いますから、要望だけしておきたいと思います。

校庭の芝生化については、例えば学校委員会とか地域の人たちが精いっぱい協力するよという申し入れがあれば、私はやっていただけるんだろうと思っておるんですが、そういう考え方でよろしゅうございますでしょうね。うん言うてくれたらそれでいいんです。（「いろいろ課題はございます。」の声あり）

課題というのは大したことないと思いますので、ぜひそれはやっていただきたいと思っております。

神戸市はデザイン都市ということをおっしゃいますので、心のデザインということについて、私は頑張っておってほしいといつも思っておるんです。教育委員会の中で、どんな心のデザインが絵をかけるかということをお考えして行動していただきますことを要望いたして終わります。